

あなたの

脚

大丈夫ですか

vol.3

下肢静脈瘤の診断方法

専門技師によるエコー検査を

「何科を受診すればいいのでしょうか?」。下肢静脈瘤を患っていても、どの病院、どの科を受診すればいいのかわからないという声をよく聞きます。むくみがある場合は内科、皮膚炎がある場合は皮膚科、脚の痛みがあるときは整形外科、女性は婦人科を受診することもありますが、

「何科を受診すればいいのでしょうか?」。下肢静脈瘤を患っていても、どの病院、どの科を受診すればいいのかわからないという声をよく聞きます。むくみがある場合は内科、皮膚炎がある場合は皮膚科、脚の痛みがあるときは整形外科、女性は婦人科を受診することもありますが、

時間で、表面に近い静脈の逆流の範囲や程度などをチェックできるほか、深部静脈における血栓の有無や動脈硬化についても同時に調べることができます。

このエコー検査で下肢静脈瘤のタイプや重症度を見極めながら、治療方針を決めます。もちろん患者さんの希望をお聞きしますが、経過観察でいいのか、治療の必要性があるのかなど一緒に検査結果を見ながら診察を進めます。

過去には静脈造影検査を行っていましたが、下肢静脈瘤の正確な診断ができないばかりか、静脈逆流(静脈弁の傷み具合)や血栓症の評価は困難です。また、造影剤を注入し、放射線被ばくするという体にとって大変な負担になる検査法なので、最近では全く行いません。



エコー検査を担う「血管診療技師(CVT)」は、日本の血管関連の4学会が承認する資格を持った臨床検査技師です。臨床の場での多数のエコー検査経験や認定試験を経て認定される、いわばエコー検査のエキスパートです。

下肢静脈瘤の専門施設、専門医師の診断と治療が重要なのは当然です。ただし、それには豊富な知識と経験を持つ血管診療技師のエコー所見と助言が非常に有用です。女性患者が多いこともあり、女性の臨床検査技師が下肢静脈瘤の正確な診断を補助する医療機関もあります(写真)。

下肢静脈瘤の治療では、エコー検査でどの静脈が、どの範囲で、どの程度の逆流があるかを正確に診断することが重要です。治療の際にも、エコー検査を行いながら、脚に印を付ける「マーキング」を行います。そして、レーザー治療などの手術中にもエコー検査を行い、安全かつ確実な治療を心がけています。

下肢静脈瘤が心配で、治療を迷っている方はぜひ、正確な診断のできる血管診療技師が所属する専門施設を受診することをお勧めします。

辻クリニック院長 辻 和宏

1986年愛媛大学医学部卒。岡山大学第二外科、屋島総合病院外科を経て2007年に医療法人社団仁和会辻クリニック(高松市林町)開設。下肢静脈瘤日帰り治療、末梢動脈疾患など血管外科を中心に診療。医学博士。外科専門医、循環器専門医。

「何科を受診すればいいのでしょうか?」。下肢静脈瘤を患っていても、どの病院、どの科を受診すればいいのかわからないという声をよく聞きます。むくみがある場合は内科、皮膚炎がある場合は皮膚科、脚の痛みがあるときは整形外科、女性は婦人科を受診することもありますが、